

觀世流改訂舊本

内二

難波
畫平
千尋
京都は繁街
紅葉猶

明治四十三年七月十日印刷

明治四十三年七月十五日發行

訂正者、檢印
ナキモノ、偽版也

東京市麹町區中六番町二十九番地

訂正兼
發行者

丸

岡

桂

東京市下谷區二長町壹番地

印刷者　塙原錦二郎

東京市下谷區二長町壹番地

印刷所　凸版印刷株式會社

東京市麹町區中六番町廿九番地

發行所　觀古流改訂本刊行會

電話番町二五四四番

文學博士

井上毅國

本文監修

丸岡桂

本文訂正

觀世清之

節附訂正

脇能

鄧波

二月

ツツシ
レテ

王仁前ハ老翁

木華開耶姫
臣下

軍第ナ
ミ人

山

も遠

みて

道の春

。風

も

も

も

も

も

静

うあけり

。そも

も

も

も

も

も

も

も

も

今よはまうほくあむちか。三熊野
を信。毎年。御龍。仕。御度。所。

頃。成就。御。御。事。も。あ。る。が。
從。今。都。よ。下。向。往。る。 や。春。立。つ。

ばものとけま。演れ、眞
乃助も波の浦づたひ。行く程よ。
早くも紀路の開拓をとしもおう津
の開拓はの里よ焉かよ。う
居う代の長柄の橋もつるす。う
彼の春も等々く。度よも梅の春
齋。ふる春の氣色す。う

真ノ
一聲

軍は、キマタ。都暉の直も代わる
と、闇の下アシで子黒コマツ。あまた熊
らも、アシ。

老いは尋ねてもよしむら
通方の事

如清江之水，自高而下，其流無窮。故能成爲
萬物之母也。故曰：「萬物皆有以生，萬物
皆有以成。」萬物皆有以生者，以其皆得
於自然也；萬物皆有以成者，以其皆得於
自然也。故曰：「萬物皆有以生，萬物皆
有以成。」

の賣物。此處不需り。○ 梅
の花が咲いてゐる。門前で見ただ。都
の花を咲かせらる。此處はの浦。おひそ
とてある梅林。○ おひそとて。おま
うのあひそとてある。○ おひそとて
の花。此處の方の春の花。おひそとて盛
り。○ おひそとてある。○ おひそとてある。

れど。梅花や花の見ゆるべ。其

上梅の名前と國可多くひへざる。

古載はおめのそくを教よむ。雖ばれ梅

江から

いそよかなてうら。時代も開け常

花とし。あまくわいたの行列とひ人。
テカル

さすもかよの種の國。ども者歸れ

雖ば津の衆を得て室のもの花や。君

あやの。お尋ねな。新しかった。あらわ
けよ。彼はの梅の事。まほらん。
尋ね。思ひ出ひ。因ひて。あらわし。
れど。さうの事は。薄よ。まくわめた。
冬。着。ふくろ。と。まくわめた。たけ
茶。水。うすい。みの。茶の。ふくろ。まくわめた。
シテ。お。まくわめた。の。と。あらわ

れたら。君はのうと會ひゆふ。おとて往
く。かきへねど。おまえ。梅の花のと
う。即ち。あつて。おまえの君の位
みを。あつまへ。時。時。時。
君の。まことに。おまえ。おまえ。おまえ。
今。おまえ。おまえ。おまえ。おまえ。
鷗鶴の。亭や。おまえ。おまえ。おまえ。

やれやう 立つばむ 上るはくにまよ。候
の木の花々づき。 やくはづる
匂ひきて。吹けども梅の風枝を鳴らすぬ古代
とろびよ。津の國のなまくらゆよ。 か
るまで。豈うあらせのため。 げよ遁
擴す。おめ。 ちか。 クリ地。 さえ
津の波の音。 あらぬ。 みくらがふ。

城。家。の。古。居。そ。う。あ。う。・昔
廣國の。耄。壽。の。古。代。も。越。え。づ。ぐ。・
萬。樹。の。政。オ。ナ。ト。・
四。海。よ。普。く。・・・・・・・・・・・・・・
飛。鳥。の。跡。・・・・・・・・・・・・・・
高。山。の。巣。・・・・・・・・・・・・・・
つ。民。の。か。ま。う。・・・・・・・・・・・・・

かくの聲ひあざぞ聞えしる。我は
汝の代よこゆ。とひきもげよ
あさがくみえどの。國より舊くニ
年れ古物の事。其に計りも極ま
い。お。君の眞跡の數つまつて。唐の唐
年れ古物。又もおほひゆく。ま
つまづく。古寶の。お。萬歳の。お。箱の。

の音をうなづかぬであります。がよ萬代
の音の花。まえくわは峰
の音語。面白かげよるの
お野ば峰。鳥の音柳。あひよ鳴
く鶯の音。すら鳴葉をまよふ
うさぎの音。あひもかひもうたの
曲。音樂や春。わらわ知